

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）  
セッション討議内容の記録

セッション名：バス交通(1)	
日付：11 月 22 日（日）曜日，セッション時間： 9:00～10:30	
司会者名（所属）： 松本 幸正（名城大学）	
<p>セッション全体：(193)の講演では，熊本市のバス路線網を階層化して再編する計画内容が示され，計画策定で用いた需要予測手法や費用便益分析の結果なども紹介された．(194)の講演では，GPS と乗降センサーで取得したデータとアンケート結果を照らし合わせて，PDCA サイクルの一環としての改善を実施し，利用者増に結びついた事例が紹介された．(195)の講演では，活動機会の確保に重点を置いたバス運行ダイヤの設定方法が提案され，過疎地における実際の設定ダイヤと比較し，提案手法によるダイヤはアクセシビリティが高いことが示された．</p> <p>全体としては，本セッションはバス運行の改善についての研究発表であったが，その観点は，都市部と過疎地，ポテンシャルとアクセシビリティ，利用者の立場と事業者の立場といった対峙するものであり，統一的な論点を導くことは不可能であった．ただし，それぞれの観点からの改善を進めていくことは必要であり，さらに，異なる視点や立場からの検討内容について，お互いに情報交換をする場があることの重要性が確認された．</p>	
(193) 竹隈史明（復建調査設計(株)）:	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 路線数が減っているがバス停がなくなった地点はないか？      バス停数は削減していない．路線のみ効率化を図った</li> <li>・ ポテンシャルを上げるための再編だったのか？      再編案ははじめに事業者にも考えてもらった．その後確認をしたら，結果として，ポテンシャルも上がっていた</li> <li>・ 地域にとって良い再編案になっていると言えるのか？      事業者側から見た効率性の評価を行った．今後は，市民の意見も聞いていきたい</li> </ul>	
(194) 谷島賢（埼玉大学大学院理工学研究科）:	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コスト分析だけでは利用者増にはつながらないのでは？      温泉施設に乗り入れて需要増を図った．このような取組を，PDCA の一環として行っていきたい</li> <li>・ 利用者の声と実績データの突き合わせをどのように行ったか？      声が真実かどうかを確認した．例えば，駅で上りか下りのどちらの電車に接続すれば良いかの判断など</li> <li>・ 評価にかかるコストは？      まずは自治体の実態を見せる必要があるので，評価は不可欠．改善の必要がなくなれば，いずれ評価は必要なくなる</li> </ul>	
(195) 岸野啓一（岸野都市交通計画コンサルタント(株)）:	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動時間の分布はどう作成したか？      普段の外出活動について，同時に頻度も聞いており，重み付けをして作成している</li> <li>・ OD はどうなっているのか？ 郊外へのトリップはないのか？      D は中心部のみ．O はバラバラだが，現在は地区を 1 つにまとめている．中心部からのトリップは過疎地のため，ない．</li> <li>・ 本源的な買い物などの需要のみを見るのか，あるいは，希望も含めるのか？      現在は，休日にブラッと買い物に行くような移動は対象とせず，本源的な需要のみを対象としている</li> </ul>	